

親鸞さまの

【本文】

五 濁の時機ごじやく じきいたりては

道俗どうぞくともにあらずひて

念仏信ずるひとをみて

疑謗破滅ぎぼうはめつさかりなり

【意識】

様々に混迷を極めた今世にあつては、

出家も在家も一緒になつて争つています。

南無阿弥陀仏（この阿弥陀にまかせよ）  
のお声を聞き信じてお念仏する人を見て  
は、

疑い、中傷して、破壊し、滅ぼそうとしてい  
ます。

【私の味わい】

映画『サバイバルファミリー』という映画を見ました。東京に住む一家に、ある日突然  
電気が全く使えなくなるという非常事態が訪れます。スマホはおろか、テレビ、冷蔵  
庫、車、電車等々ありとあらゆる電気関係のものが使用不能になり、生活に困窮した  
一家は、父親の実家である鹿児島に向けて自転車で走り出す……というお話です。普  
段の日常を根底で支えている電気を、当たり前のようにして生活していることを考えさ  
せられるお話です。

阿弥陀様は、私たちの生と死を根底から支えて下さっています。南無阿弥陀仏、

「この阿弥陀が必ず浄土へ連れ往きます。先立つた人も、あなたも、遺のこされた人も。

この仏を依りどころとなさい」と仰います。だからこそ一家が安心して生きて、安心し  
て命終えられる人生をお陰様で送らせて頂くのです。すでに支えられていることをお  
陰様と感謝して手を合わせお念仏する。当然とあぐらをかくのではありませんね。

親鸞様は、当時南無阿弥陀仏のみ教えを大切にしてお念仏の人を、中傷した人々  
が少なからずいたことを上記に述べられています。いつの世も、阿弥陀様を依りどころ  
とするのではなく、自分を依りどころとして他を非難する人はいるものでしょう。仏教  
徒ではなく、自分教の信者さんが今も昔も少なくないのです。

すでに近しい仏様が、そしてお救い下さっている仏様がいらつしやいます。その仏様に  
抱かれている今をかみ締めつつ、手を合わせて生活させて頂きたいものです。（悠水）